

令和5年度学校評価計画書（最終）

学校名（阿品台東小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
基礎・基本の定着	◎基礎学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が参加し、分かる授業づくり (UD) 個に応じた課題や支援 デジタルドリルの効果的活用 スクリーニングテストによる実態把握 地域学校協働本部と連携した放課後学習の実施 家庭学習による既習事項の定着の促進 (自由課題・進度 等) 	☆廿日市市学力定着状況調査 (4年・1月実施) にあわせて全学年実施する標準学力調査 (国語・算数) の結果、ステップ (到達度) 1・2の割合。(中学校区共通) ☆学期末単元テスト (国語・算数) の「知識・技能」, 「思考力・判断力・表現力」の結果、学級平均の結果が期待平均値を上回った学級数。	国語 30%未満 算数 20%未満 6/11 学級	国 9/11 算 6/11	国 25% 算 25.4% 国 9/11 算 7/11	120% 79% 133%	A C A	・ステップ1・2の児童の割合は国語 25%で目標達成、算数 25.4%で目標を達成することができなかった。単元末テストについては、期待平均値を上回った学級数は、国語9学級、算数7学級となり目標値を達成することはできた。今年度は、昨年度の学力調査結果から学級ごとにステップ2の児童を中心に抽出児童を定め、全員が参加できる授業を目指して研究を行ってきた。導入の工夫や ICT 機器を効果的に活用した活動などによって、児童が主体的に取り組む場面は増えたが、基礎的な知識や技能を生かした思考力を問われる課題に対しては、課題が見られるため、思考力の土台となる安定した基礎を築いていく必要がある。	・もう少し頑張れば…という児童を各クラス2人ずつ選ぶという取り組みを中学校区で実施していることは評価できる。 ・抽出児童についてみることでクラス全体の児童をみることにつながることがわかった。	・主体的に学習に取り組む児童を育成するために、学びの選択や自己決定の場が取り入れられた授業を行っているような授業改善をする。また、実態に合った授業をするために、学力面では標準学力調査の結果 (ステップ) を活用し、学力面以外については旧担任や養護教諭等から情報を収集し、多方面から児童のアセスメントを行う。 ・算数の思考の土台となる基礎学力の充実として、百ます計算や音声計算等を継続して、反復して計算を解く時間を設ける。 ・今後も教材教具の工夫をし、生活リズムの保健指導を行っていく。
主体的に課題解決をする児童の育成	自分で考え自分から取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考え・進んで取り組む授業づくり (UD・指導者のファシリテート) 主体的・対話的な学びに向けたタブレット活用 児童主体の課題設定・解決を取り入れた総合的な学習の時間 代表委員会や委員会活動による、児童主体の活動の充実 (学校をよりよくする運動 等) 生活きり週間による生活習慣の見直しと取組 	☆全国学力・学習状況調査質問紙 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合」 【市共通項目】 ☆児童アンケート 「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいる。」 ※よりよい自分になるために自分が決めた夢や目標に向かっていろいろなことにチャレンジしている。(アンケート問6) 「生活課題を自分で考え、取り組むことができた。」 9月・1月実施	85% 75% 70%	71.1% 83% 80%	83% 84% 85%	83% 110% 121%	B A A	・課題の解決に向けて自分から取り組んでいる児童の割合は、8月からさらに1%上昇し、目標を達成することができた。授業改善を通して、自由進度学習、課題の選択といった自分で選ぶ、決めるといった場面を意図的に取り入れたことが効果的であった。このことを受け、今後も色々なことにチャレンジできる、また失敗しても受け入れてあげられる雰囲気づくりを学級、及び学校全体で創り上げていけるようにしていく必要がある。 ・生活きり週間をする前に、9月1日に生活リズムの大切さについて保健指導を行った。早寝早起き朝ごはんの中から、自分で課題を選び、5日間意識して取り組むことができた。	・教室に居られない児童の居場所を確保していることは評価できる。 ・挑戦できない児童もいるので支援してあげてほしい。 ・引き続き子供が主体の活動を取り入れ、進んで取り組む粘り強い子になってほしい。	・来年度も児童が中心となって主体的に取り組める活動を促し実施することで、自己有用感を高めていく。 ・進んで自己表現 (自分を出し切れていない) できない児童もいるので、日常の様子を観察やアンケートなどを通して、児童の思いに寄り添っていくことを大切にし自分
自己有用感の育成 (中学校区共通)	◎「つながり」の主体化・日常化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の主体的活動の工夫・充実 ・児童の意見を取り入れ、日常的な取組 ・ピア・サポートの活動 (行事, 学習) ・ひがしみつけ (放送, 掲示で知らせる) ・縦割り掃除 (気づき掃除, 掃除名人の表彰等) 	☆児童アンケート 「自分のよさは周りの人から認められている。」 ※アンケートの文言 「自分はまわりの人の役に立っていると思います。」 ☆児童アンケート 「いつでも自分らしくいられる。」 ※アンケートの文言	80% 80%	76% 83%	86% 88%	107% 110%	A A	・コロナ禍が終わり、児童同士の交流の機会が日常で増えたこと、委員会や学級活動などで主体的に活動する機会が多くなったことなどが良い結果につながったと思われる。ピアサポート活動、ひがしみつけの活動も工夫を入れながら取り組めた。 ・今後も研修内容を取り入れながら安心して自分を出していける学級づくりを行いたい。	・地域清掃の際、子どもたちが汚いところも一生懸命頑張ってくれた。 ・異学年の縦のつながりがよい。 ・敬老の日の交流をまた実施できればいいと思う。 ・「保護者の声」も取り入れる。	

		○居場所感を高める取組の導入 ・安心できる学級づくりの理論研 ・適応間尺度（アセス・居場所感）を反映した取組や活動の創造	「自分にはよいところがあると思います。」							・児童主体の体を動かすイベントを実施したことで、児童の運動に対する意欲を向上させることができた。※東小中（全校鬼ごっこ）や長縄週間の実施。 ・各クラスにおける遊び係や体育係などによるクラス遊びの実施も影響を与えていると考える。みんなで遊ぶ楽しさを感じる機会が増えている。 ・今後も運動をしたり体を動かしたりすることが楽しいと思える取組ができるよう考えていきたい。	・来年度の学校経営計画の文言の中に子供の課題だけでなく良い点も記述されると良い。	らしく自己表現できる児童を育成する。 ・より児童が運動をしたい、体を動かすことが楽しいと感じるような遊びができるようにする。例えば「体育館で遊ぶうデー（仮）」を設けてクラス遊びを推奨する。 ・夏休みに職員研修で体育授業や教材の紹介をした。もっと教職員が運動を身近に感じられるよう、教職員で運動を楽しむ機会を増やす。
健康的な生活と運動への関心の向上	体を動かすことが楽しいと感じる児童の育成	○年間を通した体を動かす活動（体力づくり） ・学級遊びや縦割り・全校遊び等の取組 ・児童主体の体を動かすイベント（学期に1回） ・体育の授業における工夫（自己決定の場と教え合いの場）	☆児童アンケート 「外で運動したり遊んだりしています」（アンケート問11）	80%	82%	86%	107%	A				
教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	◎子供と向き合う時間の確保に努める。	・クリエイティブデーの充実 ・定時退校日の設定 ・会議の事前の時間設定（資料の事前配布含む） ・プロジェクトチームによる業務改善	☆教職員アンケート 「子どもと向き合う時間が確保できていると感じる。」	80%	65%	82%	101%	A	・アンケート内容の理解促進を図ったことで数値が上がった。 ・生徒指導事案が減ったことにより、教材研究や授業準備などができるようになった。 ・成績処理週間の設定により児童の下校時刻が早めになり、事務時間を確保でき時間的な余裕が生まれた。	・行事のモチ方など、一気にコロナ禍前に戻すのではなく4年以上かけてゆっくり戻すのがいい。 ・小中連携してコミュニケーション能力を高める必要性がある。	・生徒指導の未然防止に継続して取り組む。 ・学校と地域の方・保護者と児童を見守り支援する。	
開かれた学校づくりに努め、家庭・地域との協働・信頼関係を構築する。	地域への関心と愛着を持たせる教育活動を進める。	・保護者や地域への迅速かつ適切な対応 ・コミュニティースクールの活性化 ・通信、HPによる情報発信	☆保護者アンケート 「学校の取組に満足している。」	90%	93%	88%	97%	B	・2回目は88%と目標値の90%に達成しなかった。また否定的な記述の中に学校の思いや取組が十分伝わっていないと感じる内容もあり保護者への情報発信の大切さを感じている。 ・いじめ重大事案が発生したことから学校への満足度が下がる一因となった。	・学校に来やすい環境づくりをしている。 ・家庭内の会話が十分になされ、児童の心が安定していくのではないかと。 ・学校と保護者で話し合うことで思い込み・被害妄想などの誤解の解消にもつながる。	・いじめ重大事案を受けて来年度学校の信頼回復に努めなければならない。 ・学校から情報を発信したり学校の取組を細かく地域・保護者に知ってもらったりすることで信頼回復に向けて学校組織一丸となって取り組む必要がある。	

○ 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。

○ 重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。

○ 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒廿日市市教育委員会の重点施策）